

(国) 福島大学

人文社会学群

行政政策学類

キャリア教養学科 (県立福島高校出身)

Q1. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

入学前より考えていました。大学受験に失敗してしまい、リベンジしたいという気持ちがありました。当時の担任の先生に、編入という道があるということをお教えいただき、チャレンジしてみようと思いました。

Q2. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期から就職、編入とクラス別で行う「社会人基礎力」という授業で英語、小論文、面接、志願理由書についての指導をしていただきました。

Q3. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

英語に関しては1年生から自分で目標を決めて勉強しました。小論文については2年生になってから本格的にやりました。授業で課される課題はもちろん、過去問を解いて複数の先生方に添削していただきました。

Q4. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

英語です。編入試験は試験科目が一般の大学入試と比べて少ないです。その中でも「編入は英語でほぼ決まる」ということを伺っていたので、1年生のころから単語、文法、長文読解の勉強を少しずつしていました。

Q5. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

様々な講義を積極的に履修し、物事を多面的に捉える力をつけることが出来たことです。特に小論文では、論理的で採点者を納得させることができる文が書けなければなりません。多くの授業を受け、たくさんの先生方のお話を聴き自分の視野を広げることにより論理的思考力を養うことが出来ました。

Q6. 先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

面接練習の際に「より具体的に、学びたいという熱意が伝わるように話すといい」とアドバイスをいただきました。このアドバイスのお陰で、試験当日も堂々と自信をもって面接官の方に話すことが出来ました。

Q7. ①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・
④合格した時の気持ちを書ける範囲で教えてください。

- ① 第一志望の大学の試験前だったので、その予行演習としてリラックスして受けた。
- ② 必ず編入して、自分の目標を達成しようと決意しました。
- ③ やれることはやってきたから、自分を信じて頑張ろうと思いました。緊張はほぼありませんでした。
- ④ 素直に嬉しかったです。支えてくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。

Q8. これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

とにかく早く覚悟を決めて突き進むのみだと思います。試験なので合否がはっきりと分かります。一日も早く学習計画を定め、努力すれば道は拓けると思います。また、私の場合編入試験が秋にあり、周りの同級生が次々と進路を決めていく中、自分は受験に失敗したらどうしようという焦り、勉強が手につかなくなってしまった時期がありました。そんな時に家族、教職員の方、同じ志を持つ友達に励まされ試験まで頑張ることが出来ました。支えてくださる方が聖母にはたくさんいます。